

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371601234
法人名	医療法人 悠山会
事業所名	グループホーム ファミリア元八事
訪問調査日	平成19年10月19日
評価確定日	平成19年11月28日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371601234		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア元八事		
所在地	名古屋市天白区八事三丁目292番地 (電話) 052-832-8017		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年10月19日	評価確定日	平成19年11月28日

【情報提供票より】(平成19年9月27日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年3月16日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	12 人	常勤 8人, 非常勤 4人, 常勤換算 5人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 280,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	270 円	昼食	300 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成19年9月27日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名	
要介護1	2名	要介護2	5名			
要介護3	8名	要介護4	4名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	85歳	最低	69歳	最高	96歳
協力医療機関名	医療法人悠山会 山内外科					

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

名古屋市南東部の丘陵地を開発した閑静な住宅街の一角にあり、近所には公園、学校、幼稚園があり、散歩コースには困らない環境である。緑も多く残されており、近くの神社の社を訪れるため急な階段ではなく、併設の坂を時間をかけてゆっくり登る事を楽しみにしている入居者もある。共用部分、居室とも広く、共用部分は南に面し日当たりは良好である。散歩に行けなくても、芝生が施された中庭で身体を動かさず入居者もある。時々、下校途中の小学生や幼稚園児がホームに立ち寄ってくれることもある。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	初回にて該当なし。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価を自己を見つめ直す好機と捉えており、職員からは、自己評価を実施したことで、自己の介護の至らなさに気付かされたという声もあった。職員全員が毎日の介護を振り返るチャンスと考え取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2カ月に1度、運営推進会議を開催しており、毎回ホームの行事内容を報告し、次回の会議への布石としている。ホームで行っていたが入居者の手前、メンバーが発言しにくいということもあり、近所のコミュニティーセンターで開催するようにした。“会議”という名前にメンバーが萎縮されないよう、茶話会形式での運用を考えている。今回の外部評価については9月の会議で報告している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族アンケートにより、やはり普段は言いにくいこともあったのだと気付き、今後は家族の真意を推察できるよう努力していきたいと考えている。ホームに対する要望はホームで検討し、運営上の要望は本部へ報告し対処しており、本部での対応策は各ホームへ通知される。請求書と一緒に意見記入用紙を同封し、各家族に利用を促している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、回覧板も回ってくる。馴染みの店もでき、入居者は顔馴染みとなっている。近所からの差し入れやお裾分けも頂き、重宝している。地域に浸透し始めたことを実感している。認知症の勉強会を開催したり、ホームのクリスマス会に近所の方をお誘いしたりしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「優しさと安らぎに満ち溢れた住まい」が理念である。開 設して1年半が経過し、少しずつ地域に浸透してきてい る。地域の夏祭りに参加を申し込んだり、ホームのクリス マス会に近所の方をお誘いしたり、地域に溶け込む努力を 日々重ねている。		地域との関わりについて、他のホームに相談 したり参考にするなど、模索しながら取り組 んでおり、徐々に浸透し始めている。今後 は、理念の中にも地域との関わりについて表 現されることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者が言いたい事を自由に言える事が理念の具現化と捉 え、目標としている。ミーティングで月1回は理念を確認 し合っており、何か問題があった時には、理念に立ち戻っ て職員同士確認し合っている。家族にも理念を理解しても らうためには、交流が必要と考え、意思疎通に努力してい る。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	町内会に参加し、散歩に行った際には、極力ご近所との親 交に尽力している。散歩の時、立ち寄る喫茶店も今では入 居者が馴染みの顔となっている。近所の方からの差し入 れ、お裾分けも頂き重宝している。認知症の講習会も開催 し、ホームのクリスマス会にも近所の方を招待している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	管理者は評価を自分たちの行動の見直し、ステップアップ するための好機と捉えている。職員の自己評価では、各々 の理解度の差がはっきりして、今後の教育に役立てたいと 考えている。家族アンケートでは、訪問時には聞くことが できない意見に接し、家族の本音を知ることができた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーは家族、地域住民、協力医である。メンバーの意見により当初の会合の曜日を変更し、以前より集まりやすい環境が整った。“会議”という名前に尻込みされる家族の方もあり、気軽に参加してもらえるよう“茶話会”として継続しようと考えている。今回の外部評価については9月の定例会議で報告している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市、区役所、社会福祉協議会からの照会でボランティアや見学希望者を随時受け入れている。事務所の窓口には近隣のコミュニティーセンターや天白福祉交流見学会のパンフレットが常置してある。行政との協議は法人責任者が対応しており、結果は各ホームに通達される。</p>		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2か月に1回、「ファミリアHot通信」を発行し面会時には手渡しで、来られない家族には郵送で届けている。面会時には、多くの家族が意見や要望を伝えてくれる。新年会、演奏会には家族も招待している。直接言いにくい家族はポスト（意見箱）を利用して、伝えていただくよう案内している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人窓口相談できる体制は整っており、面会時に意見や要望等を家族からいただいております。意向は把握している。家族アンケートから、ホームに直接言いにくいこともあることを実感し、このことを忘れず、家族の意見を推察できるよう努力していきたいと考えている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>定期的な異動は無いが、開設に伴い系列のホームから異動することがある。開設から現在まで4名が離職し3名を採用したが、早出・遅出の職員が後2名必要だと感じている。募集はするものの応募がなかなか無いので困っている。ヘルプの形でユニット間で手伝えることはある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>公的機関の講習は法人が費用を負担し、有給扱いとなり、外部研修後は資料を回覧し職員で情報を共有している。職員の経験や習熟度がさまざまなため、計画を立てても実行は難しく、研修計画は立てていないが職員に研修の告知はしている。</p>		<p>開設から1年半が過ぎ、各職員の状態を把握できつつあるので、新人研修から継続研修など、勤務年数や経験、習熟度に応じて段階的に力をつけていけるよう、計画的に教育できるシステムを考慮されることを期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>名古屋南東部グループホーム協議会や市のグループホーム分科会に参加している。運営推進会議等の悩み、問題点につきアドバイスをもらっている。看取り介護の研修会にも参加した。会議運営での議事録やレジュメの作り方も教えてもらった。2カ月に1度交流会がある。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学会はいつでも受け入れ可能である。複数のホームを見学した後で自ら申し込み、入居した方もある。昼間の通いで体験利用も受け入れ可能である。入居前には自宅を訪問し、病院からの受け入れの場合は病室を訪れ、馴染みの関係を築いている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>洗濯物干しや取込み、調理、配膳、後片付け、掃除など一緒にに行っている。おのおの得意な分野に関しては、自ら名乗り出て積極的に日常の家事を行っている。洗濯では、指揮をとる人がおり、他の人も巻き込みながら楽しく洗濯をしている。食事介助の際には「ありがとう」、食器の返却時に「ごちそうさま。ありがとう」と入居者から感謝の言葉をかけてもらうこともあり、共に支え助け合っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ホームを学校だと思ひ込み、15時になると下校の準備をし、家族に電話するよう頼む入居者や、今はもうない自分の生家への思い入れが強く、自宅より生家への帰宅願望が強い方もある。職員は、その予兆を見逃さず本人の思いを汲み取り、外出に誘い出かけるなど寄り添ったケアに努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の要望は担当者が聞き出し、ミーティングで報告し情報を共有している。その日々の積み重ねがカンファレンスに反映され、介護計画の策定や見直しが行われている。担当者に限らず、小さなことも聞き漏らさずにミーティングで発表している。介護支援専門員により家族に介護計画の説明がされている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>長期(6カ月)、短期(3カ月)の目標を立て、設定期間毎に見直しを行っている。日々の変化を申し送り帳に記載し、情報を共有しそれを基に月1回のミーティングで見直しがされている。変化が生じた場合は、その都度話し合い、3カ月毎に医師の情報を得て見直しがされている。見直した時は必ず家族に報告し、同意を得ている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を活かして終末期における医療と介護の連携を強化している。今までに4名の方を看取った経験がある。医師とコンタクトを取り、情報を提供してもらっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居の際にはホームの協力医への主治医変更の同意書が提出されている。24時間、主治医や協力医に対応してもらえる体制が整っている。週1回、協力医の往診があり、健康管理がされている。以前からの病気で定期検査等、他科を受診されている方もいる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合における対応指針を入居者や家族に説明し同意を得ている。勤務帯により職員の重度化対応が異ならないように、日勤、夜勤で直接担当する職員に注意事項を伝えている。さらに、重度化した場合はその都度家族に現状報告をしている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりに尊敬の念を持ち、言葉遣いに気をつけ、プライバシーを大切にしている。個人情報には目に付きにくい手の届かない場所に保管している。入居者の不安や悩みは、各居室で何うようにしている。失禁した際はさりげなく誘導し、他に気付かれないよう配慮している。トイレ使用後は、職員が汚れを確認し清潔を保持している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>各入居者の日常の状態を把握し、何でも一緒に活動することは止め、各自が日常の状態に合わせて自分のペースで活動してもらっている。訪問時には、入居者の一人が何か活動を始めると、興味を持った入居者が何人が集まり、一緒に活動している姿が見られた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表に基づき調理しているが、似たような献立にならないよう工夫している。月2回は特別食の日を設け、入居者のリクエスト食を作っている。イベント食も好評である。調理の得意な入居者に職員が教えてもらうことも多い。職員は1、2階で1人ずつ検食係が入居者と同じ食事を摂っており、他の職員は見守りを中心に考え休憩時間に各自の弁当を食べている。		検食を兼ね、各階1人職員と一緒に食事を摂っている。見守りや介助を行いながら職員と一緒に食事を摂ることは職員の精神的負担は大きいと考えられるが、入居者の状態に応じて検討していくなど、食事を一緒に摂ることの大切さをさらに追求していかれることを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日置き入浴だが要望により毎日入浴している入居者もいる。場合によってはフロアを移動してもらい要望に応じている。10時～20時の間で希望の時間に入浴してもらっている。入浴を拒否される人には、対応する職員を代えたり言葉かけに注意し、気をそらすなど工夫しながら入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や片付け、洗濯物干し、たたみ等を役割としている入居者もいる。場所が変わると話し出す入居者もあり、外出や喫茶店へ行くことが皆の楽しみになっている。縫い物が得意な入居者は、趣味を活かしてパッチワークに取り組んでいる。作品は居室に飾られていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩に週2～3回出かけている。歩行の困難な人は喫茶店や外食などの際は車椅子を利用している。入居者の中には、地元の顔馴染みになっている喫茶店やスーパーへ出かけることを楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は入居者の急な外出防止や防犯のため、施錠しているが常時施錠するのではなく、昼食後や夕方に帰宅願望が強まり外出される人がいるので、その時間帯は敢えて施錠せず、外に自由に出てもらい、疲れてホームへ帰ってくることを覚えてもらっている。その時は職員が後ろから見守り、安全を確保している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の指導による避難訓練を入居者も参加して行なった。消火器の設備点検も定期的に行なっている。</p>		<p>今後、地域住民の協力を得ながら避難訓練を実施されることが期待される。災害時における非常用食料、飲料、備品等の準備についても検討されることを期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>1日の栄養摂取量は配食業者により計算され必要量が確保されている。各自の摂取量もチェックされている。塩分制限の入居者もいるが食事を楽しむことを優先し、ご飯・おかずを減らし皆と同じものを食べながら制限を守っている。水分は1,000ccを目標に三食後、10時、15時、入浴後に摂取しており、確認している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節毎の作品を皆で作作り、リビングや廊下に飾り、季節感を演出している。書や貼り絵等も写真と共に飾られている。浴室、トイレ等は皆が気持ち良く利用できるような清潔保持に心がけている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室を間違える入居者があるため表札がかけられている。居室内にカーペットを敷く入居者もあり、カーテンもそれぞれの好みで選ばれている。全室にクローゼットがあるが好みで使い慣れたタンスを置いている入居者もあり、居心地よく過ごせる工夫がされている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。